



学校だより



12月号

令和3年12月1日
横浜市立善部小学校
校長 福田 美穂

活動が目の輝きに

校長 福田 美穂

10月末のZSF（善部スポーツフェスティバル）が終わるとすぐに、次の学習やめあてに向かって全校児童はさらに活発に動き出しました。だんだんと冷たくなってきた風にも負けず、中休みには外に出て、鉄棒、登り棒、ジャングルジム、ドッジボールなど大いに体を動かしたり、リズム縄跳びで技を増やそうと練習したりしています。学校のホームページで毎日の様子をお届けしているのでお分かりの方も多いたと思いますが、そのほかにも今年度なかなかできなかったスマイル班（縦割り班）遊びを5年生がリーダー役になって行ったり、遠足や校外学習、出前授業など教室にとどまらないいろいろな学習活動を子どもたちは全身で楽しんでいます。誰もがじっとしてはいません。どんどんパワーアップしています。どの子も活動を通して人とかわかることの楽しさや嬉しさを感じて、きらりと目が光るそんな時をもっているのです。子どもたちの生き生きとした表情や自分の思いを伝えて満足しているきらきら笑顔を、クローズアップしてホームページに載せることができず残念ではありますが、きっとそういう姿を想像しながら見ていただいていることと思います。

さて例年11月に行っている読書月間を、今年度は12月に実施することになりました。図書委員会が提案し、代表委員会で話し合っただけで決めた読書ビンゴにも取り組みます。ビンゴの枠一つを決めるのにも子どもたちの思いが詰まっています。「1年生でも簡単に取り組めるものを入れたほうが良いと思います。」「いろいろな本を読むとためになるから、本の種類を分けて枠に入れるといいと思います。」など各学級でじっくり話し合っていました。「自分たちがすることは自分たちで決める」という気持ちは、こういう話し合い活動から育まれてきています。そして、きっと読書ビンゴで読書意欲を高められる子はたくさんいるはずですよ。

読書離れを言われるようになってから久しいですが、読書を通して多くの言葉を知り、想像力を豊かにし、自分の生き方を考えたり見直したりすることを期待しています。学校での読書月間という活動が各家庭や地域とともに行えると、子どもたちもさらに意欲が増すことと思います。週末の一日や冬休みなどでもよいので、パソコンやスマートフォンなどから顔を離し、本の世界に浸ってみませんか。

今年も残すところ1か月となりました。校長室にある「だるま」の目を入れる日が近づいています。今年も保護者、地域の皆様の学校教育へのご理解とご協力のおかげで、長引くコロナ禍でも健やかに過ごせました。本当にありがとうございました。よいお年をお迎えください。

